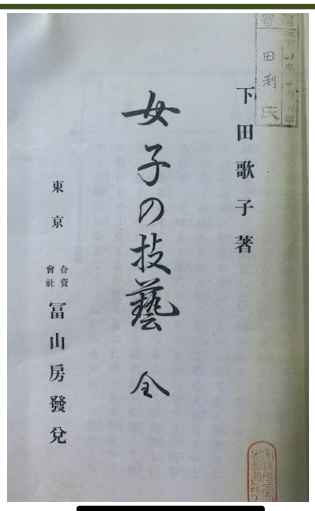
文化グループ

G04

下田歌子著『女子の技芸』（明治38年：1905年刊）の現代語訳に取り組んでいます。この著作は、神田神保町にある「冨山房」（1886年創業）から出版され、全5編から成る『女子自修文庫』のひとつで、上下巻では、以下の多岐に渡る内容を網羅しています。何れも下田歌子先生が、女性の美徳を活かしながら出来る仕事に必要な項目と考え、取り上げた内容です。

表紙



裏表紙

現代も続く皇后の養蚕

上編	
緒言	
第一	機織
第二	紡績
第三	裁縫
第四	養蚕
第五	染工
第六	刺繍
第七	造花
第八	編物
第九	押絵

下編	
第一	絵画
第二	写真
第三	速記
第四	彫刻
第五	蒔絵
第六	挿花
第七	料理
第八	包み結び物

当時、下田先生が重要だと考えていた内容は、「養蚕」「絵画」「写真」「速記」等、実に多岐に渡ります。

<下田歌子先生による緒言>

先ず、女子の仕業を「工芸」と、「技芸」に分けてみた。ただ。「工」という文字は、「労力」というような意味合いが含まれているように思われ、一方、「技」という文字には、美的観念が籠っているように感じられ、「技芸」とした。

女子には、その形態の美に伴う職業、「美的技芸」を学ばせたい。喩え生活の為にする職業とは言え、一種高尚なる趣味を嗜みつつ勉めるようにさせたいと思い、それらに属すべき内容を選び、掲載した。

◎大川知子・織田涼子・佐藤幸子・牛腸ヒロミ・関登美子